

特集

Y S E P

~世界を見据えた
東工大の取り組み~

東工大は全国でも屈指の留学生の多い大学である。学部生、院生、研究生合わせて750人を超えるというのは単科大学の中では異例の数で、およそ8%という全学生数に対する留学生の割合は欧米の水準に達しているのである。留学生がこれほど集まる理由として、実施している留学プログラムの数が多いことが挙げられる。数多くある留学プログラムの中でも2000年秋、東工大で一風変わった「短期留学特別プログラム」が始まった。どうやら理系大学としての特色を活かした留学プログラムらしい。そして、この留学プログラムは今世界中から注目を集めているという。これほど注目を集める留学プログラムにはどんな特徴があるのだろうか。一緒に見て行こう。

Young Scientist Exchange Program（通称YSEP）これが昨秋から始まった「短期留学特別プログラム」の名前であり、その最大の特徴は海外の協定校に在籍する学部4年生を対象に1年間日本独特的教育プログラムである卒業研究を受けることができる。海外の大学では研究や実験をしようとしても、博士課程までできないことが多い。また、英語でのプレゼンテーションの訓練に



取材に協力して下さった大橋留学生センター長

もあり、日本の文化も体験できるので人気を集めると予想している。実際、2001年秋に始まる第二期生募集には世界中から約2倍の応募があった。

YSEPのカリキュラムで取得した単位は自分の大学の卒業単位に加算される。YSEPでは合計で32単位取得でき、その中には卒業研究、各研究室で行われるセミナー等のほか、日本語、日本事情、工場見学と日本について勉強する時間がある。では、実際のところはどうなっているのか。YSEP第一期生のホンチャロエンタイ・チャッチャワンさんと彼の指導教官である鈴木将人助教授にお話を伺った。

* * *

タイのタマサート大学学部4年のホンチャロエンタイ・チャッチャワンさんはYSEPの第一期生として高分子工学科の鈴木研究室で高分子合成の卒業研究をしている。彼がYSEPを受けた理由は2つある。1つは地元のニュース等を見て日本にとても興味を持っていたこと。もう1つは将来日本語を活かして石油関係の会社に就職することを希望しているからである。



鈴木助教授とチャッチャワンさん

YSEPの留学生は一見、学部の4年生と同じような生活を送っているように思えるが、実はとても忙しい生活を送っているのだ。YSEPの留学生と東工大の4年生との大きな違いは授業の数である。東工大の4年生は基本的に授業はほとんどなく、卒業研究を主にやっている。しかし、YSEPではほかに研究の分野の基礎勉強をしなくてはならない。また、YSEPの授業は英語で行われるため日本語が全くしゃべれない。そこで日常生活等に支障をきたさないように日本語の授業を受けなければいけない。ほかに、日本の工場や企業を見学したり、日本の文化を学ぶカリキュラムが用意され、それにはレポート、宿題、プレゼンテーションが課せられている。その一方で研究をやらないといけないのでかなり忙しいのである。それに加えチャッチャワンさんは短期間のホームステイをするサークルに参加したり時間を見つけて旅行に出かけたりこれらの活動の資金を集めるためにタイ料理レストランでアルバイトもしているので、毎週ぎっしり予定がつまっているのである。

個人差はあるがとにかくYSEPのカリキュラムは忙しく、宿題、レポート、実験が重なった時は特に忙しかったとチャッチャワンさんは言う。特にチャッチャワンさんは化学系なので実験している時間が長く、朝9時に来て夜9時に帰るという生活が続いたり、時には泊まることもあった。ただ、その分経験できたことは多く後輩達にも是非勧めたいと語ってくれた。

「留学生を研究室に来るということが、学生の刺激となると思ったので登録しました。」鈴木先生はYSEPに協力した理由をこうおっしゃった。

YSEPの留学生を受け入れる研究室は、あらかじめ募った協力してくれる先生を指導教官として登録し、留学生に指名してもらって決まるのである。現在20人の留学生数に対し約100人の先生に登録していただいているという。鈴木先生もその指導教官の1人で、チャッチャワンさんが先生の研究に興味を持ち、指名したのだ。

前号に引き続き留学特集第2弾ということで東工大が行っている留学プログラムをとりあげた。これから益々留学は重要なになってくるはずである。これらの記事が皆さんに国際的な考え方のきっ



YSEPの責任者である広瀬教授

鈴木先生はチャッチャワンさんが研究室に来て良かったことを次のように語ってくれた。研究室では授業等により一緒にいる時間が長いため、関係が深くなる。当然接する機会も多くなり、食べ物のこと、習慣のこと等普段の何気ない会話から異文化間の考え方の相違や共通点等を発見することができるだろう。時にそれはコミュニケーションの問題という形で表れるかもしれない。しかしそれらも含めてこういったことはテレビや本からでは完全に学び取れないことであり、最も簡単な国際交流である。YSEPがければ小さな国際交流が自然と増えるのだ。

また機会があればYSEPに協力したいと鈴木先生はおっしゃっている。

* * *

東工大で行っている留学プログラムはアジア向けのものが多いが、このYSEPは全世界から留学生を集めるために始めたものだ。そしてYSEPを通じて世界に東工大の留学プログラムの良さを広め、より多くの留学生を東工大に呼び、日本の文化と研究を経験してもらう。これがYSEPの本当の目的である。また、同世代の留学生が研究室に訪れるようになれば、鈴木研究室のように我々学生にとって良い刺激となるはずである。これから留学プログラムの発展に期待したい。

かけとなつて貰えれば幸いである。最後にお忙しい中快く取材に応じて下さった、大橋先生、広瀬先生、鈴木先生、チャッチャワンさんにこの場をかりてお礼を申し上げます。 (高野 毅)